

福建省シヨウ泉鉄道建設事業

評価報告：2000年3月
現地調査：1999年3月

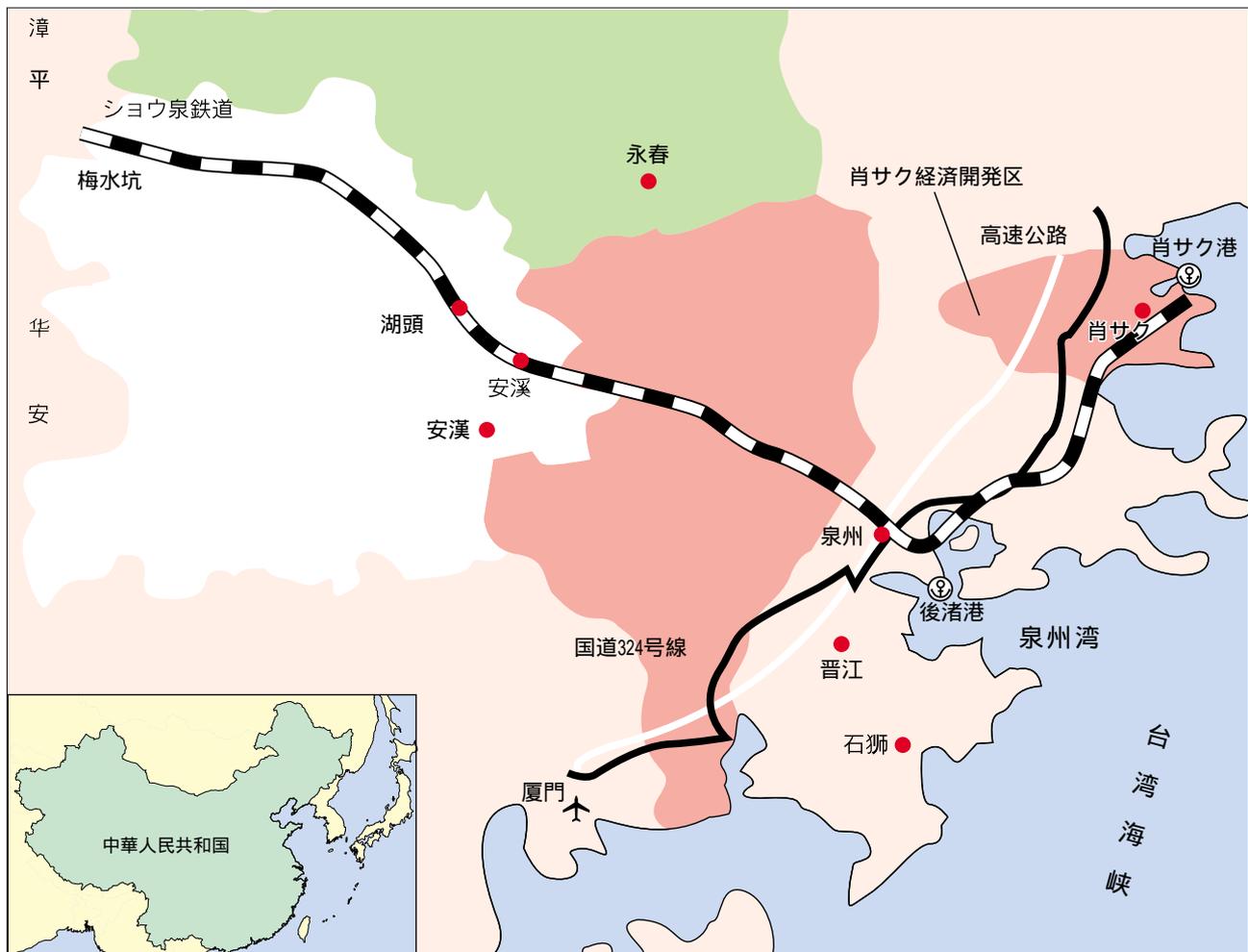
1 事業の概要と国際協力銀行の協力

本事業は、中国福建省の泉州市の経済発展に伴う貨物取扱量の増加に対応するため、鉄道を有しない泉州市に新たに鉄道を建設し、泉州市の貨物輸送の円滑化を図り一層の経済発展を促進することを目的とするものである。

事業内容は、湖頭より肖サク間128.2kmの幹線並びに肖サクから肖サク港間10.5kmおよび泉州から後渚港間7.0kmの2支線を含める総計145.7kmの非電化単線鉄道を建設するものである。

円借款対象は、事業費の外貨分全額である。

借入人／実施機関	中華人民共和国政府財政部／福建省シヨウ泉鉄道開発総公司
貸付承諾額／実行額	6,720 百万円／6,711 百万円
交換公文締結／借款契約調印	1993年8月／1993年8月
借款契約条件	金利2.6%、償還30年(うち据置10年)、一般アンタイド
貸付完了	1998年9月



2 評価結果

(1) 事業実施

事業範囲

本線部分である湖頭～泉州～肖サク間は、ほぼ計画どおり建設された。支線部分については、未だ完成されていないが、ほぼ計画どおりの設備が2000年迄に全て建設される見通しが得られている。

工期

計画では1996年10月より営業運転を開始する予定であったが、実際には1998年12月より正式な営業運転が開始され、約2年の遅れが生じた。支線部分については未だ完成されていないが、肖サク～肖サク港間は1999年10月より、泉州～後渚港間は2000年度中に営業運転を開始する見通しが得られている。遅延は、内貨費用が増大し、この資金手当に時間を要したことが主な原因とみなされる。

事業費

外貨資金については、予備費は使用したものの、ほぼ当初計画通りの実績となっている。内貨資金については、計画に対し2倍強（1998年度末レートで約94億円）のコストオーバーランとなっている。

主要計画 / 実績比較

事業範囲	計 画	実 績
本線	128.2km	127.35km
支線（肖サク～肖サク港間）	10.5km	9.31km(建設中)
支線（泉州～後渚港間）	7.0km	6.32km(用地取得手続中)
工期		
本線	1992年7月	1992年7月～1998年12月
支線（肖サク～肖サク港間）	-	1999年10月完成目途
支線（泉州～後渚港間）	1996年9月	2000年中完成目途
事業費		
外貨分（国際協力銀行）	6,720百万円	6,711百万円
内貨分	55,628.9万円	120,405.0万円 (支線分については一部見込み)
換算レート	1元 = 20.9円 (アプライザルレート)	1元 = 12.98円 (貸付実行時平均レート)

(2) 実施機関の体制（実施および完成後の運営・維持管理）

実施体制

本事業のみを実施する機関として、福建省政府・泉州市政府および鉄道部が出資し、1988年5月に「福建省ショウ泉鉄道開発総公司」が設立された。その遂行能力については、福建省政府・泉州市政府・鉄道部など多数の関係機関を調整し多額の内貨資金を調達しており、工期の遅れはあったものの、現在ほぼ計画どおりの事業を完成させる見通しを得ていることは十分に評価されるものと判断される。

運営・維持管理

本事業の運営については、福建省政府・泉州市政府および鉄道部が出資し、1997年12月に「泉州鐵路有限責任公司」が設立された。運営・維持管理についての技術水準については、泉州公司職員の大多数が鉄道部の出身者であることから、特段の問題はないものと判断される。

3 事業効果

本事業の目的の一つであった泉州～廈門間の一般道路の渋滞解消については、今後の泉州市における貨物取扱量の増加分を本事業が吸収すること、および既に泉州～廈門間の高速道路が完成していることにより、十分達成されるものと判断される。本事業の貨物需要については、今後、肖サク経済開発区の進展ならびに各港への支線（および支線への各社の専用線）が整備されれば利用は飛躍的に伸びるものと考えられ、本事業のもう一つの目的であった泉州市の経済発展

への貢献についても、ダイヤの設定等運営機関の適切な経営努力が加われば、十分に達成されていくものと判断される。



安溪駅舎



洛陽江特大橋（1308m）